

令和2年度 江戸川区立清新ふたば小学校 学校関係者評価 報告書

学校教育目標	○知 しなやかな子ども(よく考え、進んで勉強や仕事をする子ども) ○徳 おだやかな子ども(思いやりの気持ちを持って助け合う子ども) ○体 すこやかな子ども(ねばり強く、丈夫な体をつくる子ども)	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	～ひとりひとりの豊かな「育ち」と確かな「学び」を目指して～ ○豊かな心・社会性・人間性の涵養(知識⇒知恵⇒行動) ○確かな学力の定着・向上 ○地域・家庭とともに歩み育てる学校(共育・共創・協働) ○教職員全員が子どもの鏡
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ○統合新校として5年。地域や保護者の意見交換を積み重ねながら学校づくりを行ったことで、地域や保護者の皆様に「清新ふたば小」の良さを伝えることができ、支援者や理解者が増えた。 ○子供たちにとっても「楽しい学校」「明日が待ち遠しい学校」になってきている。 <課題> 平均年齢35才の教師集団をOJTを重ねながら組織的に育成し、授業力向上を図っていくこと。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	小中の情報交換を多く行い、連携を密にする。	小学校における各学年基礎学力の定着(90%以上)	B	C	○小中で各教科の目標を共通理解できた。 ●実践の振り返りを行っていく。	C	小中連携により確かな学習効果が得られる。今後も推進してほしい。 情報交換を密にして連携を継続していく。	今年度ははばりなかつた、清臨教での話し合いを深め、目標を共有していく。
	今日の教育課題への対応	「特別の教科 道徳」への対応 総合的な学習の時間を核としたカリキュラムマネジメント	新学習指導要領への対応	年間指導計画の作成、見直し指導と評価について検討	A	B	○総合的な学習の時間を核として、年間指導計画の作成を行うことにより、授業計画も具体化することができた。 ●更なる検討が必要である。	A	グローバル化している学校の状況もある。そのことを踏まえ、さらなる充実を期待している。	低・中・高学年の取組が現在の子供たちの状況に対応できる生きた授業になっていくよう、さらに検討を重ねる。
	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	「総合的な学習の時間」「読書科」を核としたICT機器を活用したプレゼンテーション能力の育成。	ICT高学年プレゼンテーションソフトを活用した活動・教員によるICT機器を活用した授業の育成。	A	B	○児童の活用能力が向上した。 教員による活用力が向上した。 ●保護者への説明不足。	A	ICTの活用についてよくできている。積極的に取り組む姿勢がホームページから分かる。	今年度の成果と課題を踏まえ、通常の授業の中で、今以上に積極的に活用できるようにしたい。
教員の資質向上	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実	特別支援委員会の充実	特別支援教室担当教員や心理士との支援方法の共通理解	B	B	○教員間での連携は密にできた。 ●全校児童に理解教育を行っていく。	B	理解はされつつある。子ども同士に優しさや温かさが生まれるように指導して欲しい。	保護者の啓発も重要視する。思いやりの心を育てる。
	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	補習年35回以上	児童一人一人の学習状況に即した学習指導の充実	A	B	○学年で対応することにより、より良い補習を実施できた学年があった。 ●診断テストを活用し、普段の授業に生かす。	A	きめ細かい指導は、保護者にとっても子供にとってもありがたいことだと思う。	学年で補習内容によりクラス分けをするなど学習形態も工夫する。
いきいきと学ぶ教育の充実	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実 ・読書科ノートを活用など、探究活動、探究的な学びの充実 ・学校図書館を使った授業の充実	読書科授業の充実35時間 図書館の活用	読書好きな児童80%以上 調べ学習が楽しい70%	A	B	○読書を通して課題解決する探求的な学習が学年に応じて行われた。 ○学校図書館の整備、地域図書館との連携が進んでいる。 ●探究活動の時間を十分に確保する。	A	読書好きな子が多く、調べ学習も楽しいと思う子供が多くなる。学校図書館を活用してほしい。	探究的な活動の時間を十分に取り、身に付けたことを多くの人に発信していく。
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	体育科の授業での運動量を増やす	体育科の授業での運動量10%増やす	B	B	○体育の時間に様々な動きを入れ授業を工夫した。 ●コロナ禍で外遊びの機会が減った。	B	様々な工夫をし、体を思いっきり動かしてほしい。	体育授業での運動量確保。体育実技の研修を行う。
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	実施計画に基づく年間35時間以上の取組み	児童アンケート肯定的回答90%以上	B	B	○興味をもつ児童が増えた。 ●児童の意識付けを更に行う。	B	開催が危ぶまれる中ではあるが、努力をし、結果を出すという過程を感じ取ってほしい。	体験で終わらないように、各教科と関連付ける。
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	外国語活動(科)の授業の相互観察 学期1回以上	英語でのコミュニケーションを楽しむ児童80%	B	B	○ALTをうまく活用している。 ●学級担任の研修が必要	B	英語好きになるような授業をしてほしい。	ALTと連携したり、研修をしたりして授業力を高める。
	健全育成に向けた取組の強化	いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	学期ごとに児童アンケート SC・保護者との迅速な連携	いじめ・不登校0・言葉遣い	A	B	●言葉遣いや態度等は引き続き指導していく。	B	言葉遣いや態度については家庭にもしっかり伝え、啓発していかなくてはならない。	学校全体で情報を共有し、一貫した指導を行う。(週、月目標の活用)